

# 山田錦 伸び率全国134%

## 27年産では大量の余剰米発生が必至!

～ 繰り返す酒米の余剰による暴落、品質が勝負の分かれ目 ～



# 生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)

農林水産省の26年産の12月末の速報値によれば、山田錦の全国の検査実績数は47万9千俵を上回っています。新潟県だけでも25年産対26年産で137.6%の大増産。

25年産の同月検査実績は35万8千俵なので、実に12万俵増産されています。山田錦産地の西日本で3年連続不作で供給不足が続き、不足感がありました。

加えて、日本酒がクルジャパンの追い風を受けて好調とはいえず、大吟醸・純米大吟醸用の山田錦の需要がいきなり12万俵増えるとは考えられません。

○平成27年産からは品質勝負  
山田錦は不足から供給過剰になり、コシヒカリなどと同じく産地間競争が激しくなります。間違いないと言えることは、「品質」が勝負の分かれ目となることです。

## 募集します!

詳しくはお問合せください

- ・ 野菜生産者
- ・ 新規需要米(品種問わず)
- ・ 加工米(雪の精・越のかおり)
- ・ うるち米(春陽)

※機能性米は今後拡大する可能性大

今年度も品質向上、栽培技術確立に向かってがんばりましょう!

新潟・山田錦栽培会は2年目の目標を「品質向上」と掲げて、蔵元の信用を勝ち取ることで山田錦を産地として育てて生き残る唯一の方法です。

山田錦生産者の皆様へ

## 新潟・山田錦栽培会 平成27年度第一回勉強会のご案内

- ・日時：2015年2月16日(月) 13:30~16:30
- ・場所：アオーレ(長岡市役所) 市民交流ホールD

《勉強会内容》

- ・27年産山田錦作付について
- ・26年産栽培体験発表  
《指導》淡路 良一 先生
- ・「瀬祭との山田錦 IT化する取組」  
《講師》富士通株式会社 前田 克美 様  
大橋 勇太 様

講師略歴

前田 克美  
富士通株式会社 西日本営業本部  
中国ビジネスイノベーションセンター エキスパート  
2002年 (株)富士通中国システムズ 山口営業部長  
2013年 富士通(株)中国支社 公共・農水営業部へ出向

大橋 勇太  
富士通株式会社 イノベーションビジネス本部 ソーシャルイノベーション統括部 Akisai部 アシスタントマネージャ  
2001年04月 農林水産省入省  
2011年07月 総合食料局食糧企画課企画官  
2011年10月 生産局園芸作物課課長補佐  
2013年04月 官民交流法に基づき富士通(株)へ出向

お申込みは、別途お送りしたFAXをご覧ください



平成26年12月の勉強会の様子

2014年8月5日 日本農業新聞

### 「山田錦」増産へデータ収集 富士通と旭酒造が連携

旭酒造(山口県岩国)やす取り組みの一環として、4月に山口県内の2農家の圃場(ほじょう)で富士通の生産管理システムを導入した。収穫量が安定しない、倒伏しやすいなどで栽培が難しい「山田錦」の栽培技術をデータ化し、新規生産者でも取り組みやすくなる。システムを使えば、生産に掛かるコストを、作業実績から割り出すこともできる。圃場に気温や湿度、土壌水分などを測るセンサーを設置し、細かい環境情報も収集し記録する。

今秋の収穫後、蓄積した情報を分析し、活用していく。旭酒造では、2015年度以降、この取り組みに参加する農家を増やし、地域特性に応じた栽培手引の質の向上を目指すとしている。

2014年8月5日 日本農業新聞